

平成25年度国立天文台研究集会開催報告書

平成25年10月 7日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) みねしげ しん		
		嶺 重 慎 		
	所属・職	京都大学・大学院理学研究科・教授		
	電話	075-753-3901	E-mail	shm@kusastro.kyoto-u.ac.jp
研究集会名	ユニバーサルデザイン天文教育研究会「共有から共生、共動へ」			
開催期間	平成25年 9月28日 ~ 25年 9月29日			
開催場所	国立天文台大セミナー室			
参加人数	124名（業務として参加した天文情報センター職員5名を含む、情報保障の手話通訳者、PC要約筆記者、のべ16名を除く）			
研究集会の概要	<p>「ユニバーサルデザイン天文教育」とは、従来の天文教育活動でとかく忘れられがちな障害者（視覚、聴覚等）や病院に長期入院中のこどもが対象の活動に、国際貢献や地域連携なども含めた、より広い意味での天文教育活動を意味する。宇宙に興味をもち、宇宙について学ぶことは、世代や性別、国、健常者・障害者の別を問わず、誰でも等しく享受できるものであるべきだが、現実はそのからほど遠い。本研究集会は第1回（平成22年6月）をふまえ、ユニバーサルデザイン天文教育を普及するための基本的考え方や方策を、豊富な事例を元に、健常者・障害者の対話・討論を通じて深め、広いネットワークを構築する目的で開催した。</p> <p>本研究集会には、天文研究者や学生はもちろんのこと、天文教育普及、障害当事者および支援の方々など、いろいろな背景や興味をおもちの方が集まり、120名を超える参加を得た。内およそ半数は、国立天文台に初めて訪れた方である。視覚障害者、聴覚障害者、身体障害者（車イスユーザー）の参加数は、それぞれ8名、14名、1名であった。情報保証（情報をふさわしい形で障害者に伝えること）のため、希望者に点字資料を配付し、手話通訳とパソコン要約筆記（パソコンを用いて発言を要約してスクリーンに投影するサービス）をつけた。天文台からの経費は、講演者の旅費と情報保障（手話通訳、要約筆記）費に用いた。</p> <p>研究会は、小久保英一郎氏（国立天文台）による天文学最前線の話に始まり、長谷川晃子氏（JAXA、聴覚障害者）、廣瀬彩奈氏（大宮ろう学園、聴覚障害者）、飯塚高輝氏（竜のおとし子星の会、聴覚障害者）、藤原晴美氏（元盲学校教員、視覚障害者）らによる障害者サイドからの発信、新井寿氏（ぐんま天文台）によるユニバーサル望遠鏡の開発と実演、磯部洋明氏（京大）による芸術・伝統芸能とのコラボレーション、高橋慶太郎氏（熊本大）、臼田-佐藤功美子氏（国立天文台）・富田晃彦氏（和歌山大）による国際的な活動の実例紹介、北村まさみ氏（つくばバリアフリー学習会）・高橋淳氏（水海道一高）による地域に根ざした学習会の紹介など多岐に渡った。総計で9件の招待講演、25件の口頭講演、3件のポスター講演があった。また、初日、2日目とも、テーマごと10~20人の7つの小グループに分かれて個別に議論するグループ・ディスカッションの時間を、それぞれ約40分と80分、設けた。最後にまとめを行い研究会を閉じた。</p>			

研究集会の成果

前回の会議では、共有（お互いを知ること）が中心であった。今回、それをふまえて、共生（共に学ぶ）、そして共働（共に社会に貢献）を中心テーマにすえた。広く参加をよびかけたところじつに多様な講演があった。盲学校・ろう学校における天文教育、ホスピスでの観望会 アフリカへ望遠鏡を、ルワンダ・カンボジアでの出前授業、視覚障害者による宇宙のイメージ、X線衛星データの可聴化、読書のユニバーサルデザインなどなど。参加者のバックグラウンドも多様であった。今まで天文に関わりの無かった方々（視覚障害者、聴覚障害者、身体障害者、福祉関係者やユニバーサルデザイン活動に興味のある方）が多数参加し、グループ・ディスカッションを通じて交流や理解を深めることができた。

グループ・ディスカッションは、学校教育・教材製作（2グループ）、プラネタリウム、公開天文台、病院訪問活動、国際連携、地域連携の7テーマのグループに分かれ、それぞれ時間を忘れ、自らの立場を離れて、共に語り合うことができた。これが最大の成果であろう。以下は、その記録からの抜き書きである。

- ・視覚障害者とともに観望会を行う中で、リアルタイム性が大切であるとの認識で一致した。リアルタイム性とは、視覚障害者自身が、一緒に天体観測に参加しているのだと「見えた」という喜びを共有できるようにすることでもある。

- ・プラネタリウム投影において、聴覚障害者には手話が見えるように明るくする必要があり、健全者と障害者が同時にプラネタリウム投映を見る時は、星の光と手話紹介の明かりが共存できる投映ができれば良い。

- ・公開天文台は、一番ユニバーサルデザインの実現が難しい施設といえる。手話通訳が常時つけば理想的だが、マニュアル通りの対応ではなく、伝えたいという気持ちや、“welcome”な雰囲気が大事である。

- ・病院活動の実績は着実に積み重なっている。受け入れ側の病院、ボランティア側の両方の負担を軽減させることで、息の長い活動へとつなげる工夫が今後の普及にとって重要になるであろう。

- ・国際連携について、「まず、やってみる」とはいえ、しきいが高い。良い友人が触媒となる。触媒があればやってくれる人はそれなりにいる。触媒となる人「リソース」を共有すること（「人材 (human resources)」という名前の通り）。

- ・地域連携について、リーダーの役割は、ボランティアの人を信じてフォローもするし責任もとるが、ある程度フリーハンドを与えること。うまくいっているところのノウハウの蓄積のため、運営の明文化が望まれる。

繰り返し出されたキーワードは、「ネットワーク」と「コミュニケーション」である。それも、組織と組織でなく「人と人との」ネットワークでありコミュニケーションの有用性が認識され、強調された。

一般に、障害者向けプログラムの実施は、福祉の文脈で多数なされている。しかし科学教育においては、プロの研究・教育者がそこに直接関わることが必須であり、未開拓の課題である。例えば、世話人代表らは、障害者当人、福祉の専門家らと共働して天文学習教材を開発・製作し、セミナーや出前授業を実践してきた。人とコミュニケーションを密にしながら、共に宇宙を学び、共に活動する姿勢で経験を積むことが、まわりまわって健全者にも、すなわち万人にわかりやすい活動になると私たちは考えている。さらに、このような活動は、より広範囲、より広い対象の天文教育普及活動を推進することを目的としたIAUの10年戦略 (IAU Astronomy for Development Strategic Plan 2010-2020) とも合致していることも強調しておきたい。

いくつか課題も浮かび上がった。事例紹介数は多かったが、各講演がどれだけ深く掘り下げられたか、各講演間のリンクはどうかという観点で不十分だった。また、研究会の準備・運営の仕方にも大きな課題が残った。一方で、このような研究会を、ぜひ、継続して開催してほしいという要望も出席者からいただいた。これらの反省点をふまえて、今後、何らかの形で、活動を継続していきたい。

その他参考
となる事項
(希望事項も
含む)

今回の研究会の費用の大部分は、情報保障（手話通訳とパソコン要約筆記に関わる費用）に支出しました。当初の予定時間より時間延長した影響などにより、情報保障費の割合が増加しましたが、事務には柔軟に対応していただき、情報保証を十分に確保することができたことに、改めて御礼を申し上げます。また、天文情報センターのみなさま方には多大な人的支援をして頂きありがたく思います。もともと負担をかけ過ぎたことは事実であり、大きな反省点であります。

いくつかお願いしたいことがあります。今回の研究会の開催にあたり、世話人や遠方からの参加者、視覚障害者のためにコスモス会館を予約していただきました。その多くは土曜からの宿泊でありましたが、全支払いを金曜日午後4時まで天文台事務で行うようにとの要請が研究会代表者あてにありました。それは、とても大学業務の関係で無理でしたので、事務に電話をして事情を伺うと、規定に定められているとのことで、前日に慌てて京都からかけつけ30分遅れでしたが対応して頂きました。国立天文台は全国共同利用機関であり、また市民に開かれた天文台を目指す限り、土日にイベントを行う機会は増えていくでしょう。そのために必要な宿泊の費用を、イベント前日の午後4時までに出向いてきて支払わないといけないというのは、地方からくる人にとってはかなり厳しいです。前納が必要なら振込可にしていただくなど、何らかの措置をお願いします。

次に、コスモス会館のバリアフリー対応です。今回、車イスの参加者がいましたが宿泊できませんでした。2階、3階の部屋に上がるのにエレベータが無いからです。これでは、車イスユーザーのみならず、大きな荷物を抱えて滞在する人にも不便に思います。

最後に、大セミナー室のトイレに関してです。個室への白杖用の誘導、および水を流す際のパネルに点字があれば便利です。また、女子トイレの入り口と広い個室の扉を横引き扉へ改修していただくと、車イスユーザーが1人で利用しやすくなります。「押し引きドア」だと、車イスユーザーが、ドアを押して入ることは可能でも、引く（ドアノブをもちながら車イスを後ろに動かす）のは困難だからです。（通常、多目的トイレは横引き戸になっています。）奥の個室は、車イスでも入れるよう広く十分なスペースがありますし、洗面台の下も空いていて車イスでも寄りやすくなっているトイレなので、扉だけの改修だけで使い勝手が格段に向上します。三鷹キャンパスの他の建物（本館やコスモス会館1階）のトイレも同様です。

いずれもすぐには無理かもしれませんが、より広範囲な方々の来台のため、長期的には対応していただけますよう、よろしく願いいたします。